

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科（総合学科）」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指したキャリア教育を推進する。					総合評価
平成29年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			
平成29年度はキャリアデザイン科3年目として初めての卒業生を送り出し、3年間のキャリア教育の積み重ねの成果が一定見られた。先生方の組織的できめ細かな指導の結果、問題行動による指導件数や遅刻数は減少した。平成30年度は、地域社会に貢献することを目指した新たな取組を始め、この取組を中核に据え、全ての教育活動でキャリア教育をより推進していく。	(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進		①学力の向上（質の高い授業・BUTによる基礎学力の充実・積極的な資格、検定の取得）。 ②「産業社会と人間」、「社会人基礎力（課題研究）」による、キャリアプランニング能力の育成。 ③実学教育を推進するとともに地域と連携し、社会を構成する自立した主体となる生徒の育成。 ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性を持った生徒の育成。				
	(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成		①爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ②積極的、自主的な清掃活動を通して、公共心や感謝の心を育む。 ③ボランティア活動を推進し、社会に貢献する意欲と責任ある態度を養う。 ④高等養護学校分教室との交流を推進し、社会性、多様性を尊重する心を育む。				
	(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営		①評価と指導の一体化及びICTの活用を推進し、主体的、対話的で深い学びの実現を図る。 ②保護者や地域との連携・交流の強化のため、積極的に情報発信と情報公開を行う。 ③学年、分掌、事務局が情報を共有し、連携・協働を一層進める。 ④教育活動の充実と安全管理のため、施設・設備の整備を進める。				
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTの実施により基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。生徒アンケートにおいて「授業を通して、あなたの学力や技能は向上していますか」のGPA3.1以上。 ・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。各種検定受検数500名以上。					
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、ICTを活用した授業づくりを進める。 ・生徒が主体的に取り組むことができる授業の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.0以上。					
生活 指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守れる素地をつくる。さらに積極的に挨拶が出来るように指導を続ける。 ・問題行動による指導件数について昨年度比10%減をめざす。					
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切にする指導を徹底し、はじめある行動を心がける。さらに遅刻の減少に取り組み、遅刻数について昨年度比10%減を目標とする。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみについて学年間の不統一のない指導を展開する。					
	生徒理解と家庭との連携	・家庭訪問に代えて実施した中学校訪問で得た情報を集約し、学年当初の生徒指導に役立てる。 ・欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭との協同による指導を行い、保護者アンケートにおける「学校の先生は生徒理解に努め、生活指導面にも熱心である」のGPA3.5以上。					
情操 指導	読書週間の定着	・読書週間中のお薦め本のリストを作成する。図書委員会活動を活発にする。(読書会やお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う。)					
	文化行事の充実	・生徒からの意見を活かした芸術鑑賞会の企画を行い、内容の充実を図る。					
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・年2回清掃用具点検を行い、清掃活動が円滑に行えるようにする。(点検率100%)					
	奉仕精神と勤労観の育成	・生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動を継続し、参加延べ生徒数200名以上を維持する。 ・年間を通して各クラス年1回の通学路清掃の実施する。					
健康 管理	生徒の体力向上と健康維持	・部活動の活性化を通して体力向上を図るために運動部への加入率をあげる(昨年度比10%増)。 ・新体力テストの校内平均で、2種目以上は奈良県の平均まで引き上げる。 ・体力向上のためのトレーニング内容を工夫した体育の授業を実施する。					
	食育の充実	・朝食の必要性を重点的に伝えるために生徒及び保護者対象のアンケートを実施するとともに保健だよりを毎月発行する。					

※ 自己評価結果について … A：十分である（よくできた） B：ほぼ十分である（ほぼできた） C：あまり十分でない（あまりできなかった） D：改善を要する（できなかった）

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路 指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナー出席率者数の目標を70%以上とする。内容もさらに充実させ、進路実現に向けての意思決定と方策の実行をサポートし、ミスマッチを防いだ進路指導に努める。				
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・卒業後の新生活へのスムーズな移行への支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対し、定期的にセミナーを実施する。該当生徒100%の参加を目標とする。				
地域 ・保 護者 との 連携	学校関係者との連携	・PTA新聞を年2回発行する。PTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数10%増) ・学校評議員からのアドバイスを学校運営に活かす。				
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率90%以上。				
	開かれた学校づくり	・学校ホームページの充実。保護者アンケートにおいて「本校のHPをよく見ている」のGPA2.2以上。 ・学校開放・地域交流の推進を図る。				
防災	安全教育・防災体制の充実	・年2回避難訓練を実施し、防災教育の充実をはかる。定期的に安全点検を行う。				
人権 ・ 特別 支援 教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・交流委員を中心にした分教室との交流学习会を実施し、インクルーシブ教育の充実を図る。 ・人権ホームルームや学年集会を通して、ネットモラル意識を高める取組を行う。				
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・個々の生徒の課題を受け止め、迅速で組織的に対応するために毎学期スクールカウンセラーを講師とした研修会を実施する。				
	国際理解教育	国際理解教育の深化	・国際交流研究会の活動をより国際的なものにし、多文化共生社会に対する意識を高める。			
研究 研修	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、高等養護学校分教室との連携を強化し、合同の校内研修会を実施する。				
		・教科の枠を超えた授業公開・研究の実施(延べ参加人数昨年度比10%増)。				
第1 学年	基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上	・欠席・遅刻、身だしなみや挨拶、言葉遣いへの意識を高めさせ、社会人基礎力の基盤をつくる。生徒との対話を日常的に行うことを心がけ、信頼関係を強化する。 ・生徒の可能性を伸ばし、主体性と協調性をもった生徒を育成する。				
第2 学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・自ら身だしなみを意識する姿勢をもたせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(平成29年度第1学年比10%減) ・授業・BUTを大切にし、進路補習等に積極的に参加させる。				
第3 学年	生徒の進路希望の実現を図る	・生徒の進路選択のための説明会や進路補習、放課後の面接指導等を充実させる。また、欠席や遅刻の総数を減らす。(欠席および遅刻総数第2学年時比10%以上減) ・爽やかな挨拶や適切な言葉遣いなどの社会人基礎力を身に付けさせる。				
総合	教育活動全体の充実	・保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.6以上。				

※ 自己評価結果について … A:十分である(よくできた) B:ほぼ十分である(ほぼできた) C:あまり十分でない(あまりできなかった) D:改善を要する(できなかった)